

読者
06.7.28

迂回路としての方法論

理論へのこだわりと文学への思い

千葉 一 幹

中村 三春書

修辭的モダニズム

テキスト様式論の試み

ある。だが問題は、その晦
びきではない。なぜ、そこ
まで理論を意識するのかと
いついした。

第一部で宮澤賢治と横光

利一、第二部では阿部知二
と川端康成を相手に乗せた
本書は、具体的作品を扱っ
た点で、中村の理論へのこ
だわりの意図が明瞭に示さ
れている。特に、賢治と横

光を対象とした第一部でそ
れは明らかだ。この二人の
作家を扱う際のキーワード
は「争異」であり、中村の
もう一つの近著の題にも含
まれた「係争」である。

賢治の『銀河鉄道の夜』
では直喩が頻出するが、直
喩は発見的認識をもたらす
修辭であり、その発見は、
先行する見解との間に論争
を引き起こす。その結果、
直喩に充ちた『銀河鉄道の
夜』は、ジョバンニがそし
て賢治が求めた「純粋な共
同性や純粋なコミュニケーション」
とは裏腹に、「争
異」するテキストとなると
指摘する。

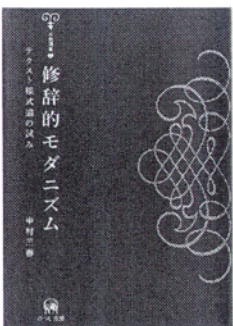
両者のテキストは、唯一の
解釈に収斂するようなもの
でなく、むしろ、「争異」
「係争」を惹起するもので
あることが明らかにされ
る。
このように中村が明らか
にした「争異」「係争」す
るテキストと理論・方法論
への関心は、どのような関
係にあるのか。共通の言語
がないところでは議論その
ものが成立しないように、

また、そのイデオロギー
的側面から否定的評価を受
け続けてきた『旅愁』を、
「論争し恋愛する旅行小説」
と中村は捉え、横光のテク
ストの特質を「何らかの固
定的なイデオに収束するよ
うな言説は、次々と、たち
どころに相対化される」も
のと呼ぶ。

賢治の『銀河鉄道の夜』
を駆使して論を構築しよう
とした。理論的言語
ば、かずみ氏「拓殖大学
教授・日本近代文学専攻」
★なかむら・みはる氏は
山形大学教授・日本近代
文学専攻。東北大学院
博士課程中退。著書に「フ
ィクションの機構」「言
葉の意志」「係争中の主
体」など。一九五八(昭
和33)年生。

誠実評価・御報即参上
古本買入
大雲堂書店
〒101-0051 千代田区神田神保町1-9 TEL.(3294)0616-7

「争異」「係争」といった
論争を成立させるには、最
なのだ。そのような意味で、
本書は、硬質の理論的言語
の中から問答泉のようにわ
き出る中村の文学への思い
に出会える本なのだ。「ち
なみ」。



46判・366頁・2940円
ひつじ書房
4-89476-272-2

中村の方法論への執着
は、そのような生の声を語
るための迂回ではないか。
かつて小林秀雄は、「批評
とは竟に己れの夢を懐疑的
に語ることはないのか
!」（『様々な意見』）
と看破したが、中村にと
て、方法論とは、「己の夢」
を語るための懐疑「迂回路
なのだ。そのような意味で、
本書は、硬質の理論的言語
の中から問答泉のようにわ
き出る中村の文学への思い
に出会える本なのだ。「ち
なみ」。